

和して同ぜず

北海道交通研究会

会長 佐藤 馨 一

倭の国、日本は「和」を最も重要な字句とし、聖徳太子のご誓文である「和をもって尊としとなす」を精神的なバックボーンとしてきた。広辞苑で「和して同ぜず」を引くと、「意見が同じなら他人と協調するが、おもねて妥協することはしない」とある。一般に、この格言は付和雷同（自分に一定の見識がなく、ただ他の説に訳もなく賛成すること）を戒めたものとして理解されてきた。

このような解釈に対して、立命館大学名誉教授の白川静先生は「和」の語源から説き起こし、広辞苑の説明を否定している。すなわち、「和は禾と口に従い、禾は軍門の象であり、口は卬（さい；神への誓詞を納める器、祝禱[しゅくとう]）を示す。和は軍門で盟誓し、和議を行うこと、すなわち降服の儀礼となる。したがって和平の意となる」と述べている（字統より）。

「君子は和して同ぜず」の意味は、「君子はたとえ軍門に下り、降服の儀礼をとることはあっても、勝者に対して一線を画し、同化はしない」となる。アメリカ軍に破れたイラク国民の心情は、まさに「和して同ぜず」であった。

一方、太平洋戦争に敗れた日本は、アメリカに対し「和して同じ」てきた。「漢字を廃止せよ」と迫ったアメリカの意を受け、日本政府は当用漢字（現在の常用漢字）として1850字のみを使用するという漢字制限を断行した。

漢字の素養を失った現代の土木技術者は、公共事業の推進にあたって「合意」と「同意」を取り違っている気がしてならない。「合」は祝禱の器に蓋をすることであり、約定が成り、これを載書として祝禱の器に収めることを示している。ここから契約、盟誓の成ることをいう。一方、「同」は袂い清めることによって一体になることを言い、その儀礼の参加者が合一することを意味している。

合意とは、反対意見を持つ人がいる場合、十分な話し合いをし、その上で多数決等によって結論を出すことを言う。また同意とは、反対意見を持つ人がいる場合、その意見を変えさせるために熱心に説得し、全員一致の結論を求めることを言うのである。

100人の市民がいれば100の意見があり、全員一致の結論は反論の封じ込めか、参加者の諦めでしかありえない。公共事業は100人の市民のためのものであり、その中には当然反対意見を持つ人も含まれる。その可否は議会による多数決によることが最も民主的であり、将来に禍根を残さないことを歴史は教えている。

公共事業の推進にあたり「合意形成」を目指しながら、反対意見の市民に対し説得を行い、賛同を求める「同意形成」の道を歩んでいないだろうか。「同意形成」のプロセスでは反対意見が過大評価され、「公共事業絶対反対」というイデオロギーに屈することになる。

1997年の流行語大賞トップテンに、北海道庁の「時のアセス」が選ばれた。その理由は以下のように述べられている。

『役所による“時代錯誤”の公共事業は、世論の強い批判を浴びながらも相変わらず行われている。そんななか、長期間に及ぶ公共事業を時代の変化に照らして見直そうと、独自の“評価システム”を作り、「時のアセス」と命名。センスに富んだネーミング、“常識”を行う勇氣は全国から圧倒的支持を受けた。』

北海道では9事業を「時のアセス」にかけ、苫小牧東部地区開発を「休止」とした以外、すべてを「中止」とした。その一つに土幌高原道路が含まれている。道庁の政策会議は土幌高原道路について、「費用便益比が小さい」ことを主な理由として中止を決定した。しかしこの決定は、基本的な間違いを犯していると言わざるを得ない。

もし費用便益比が事業実施の基準であったならば、当初のオープンカット工法による開削が最適となる。しかし道庁建設部は自然保護団体の要望を受け入れ、環境への影響を最小に抑えるために、工費が数倍になる全面トンネル案を採用したのである。「時のアセス」ではこの経緯がまったく無視され、公共事業絶対反対の「自然保護団体」へ強力な武器を手渡してしまった。

北海道が「時のアセス」において費用便益比による道路事業評価を行ったことにより、道々土幌高原道路の建設が中止され、道々静内中札内道路も中止に追い込まれた。そして今、北海道縦貫道土別・剣淵～名寄間、北海道横断道本別～北見間がD評価となり、国と都道府県の負担で高速道路を建設する「新直轄方式」の対象区間となった。北海道はこの決定に反論する論理を自ら放棄しており、そのことは将来に大きな「つけ」を残したと言わざるを得ない。

北海道の公共事業は中央政府の理解を得ることが少なく、事業不採択という軍門に下ることも多かった。しかし土木技術者の志は高く、北海道開発にかける情熱は熱かった。言いかえれば「和して同ぜず」の心意気は盛んであった。しかし今や、中央政府の軍門に下り、独自の理念さえも失って「和して同ずる」姿を見ることが多い。